

# 宗像市 自治会における男女共同参画 推進状況 調査報告書

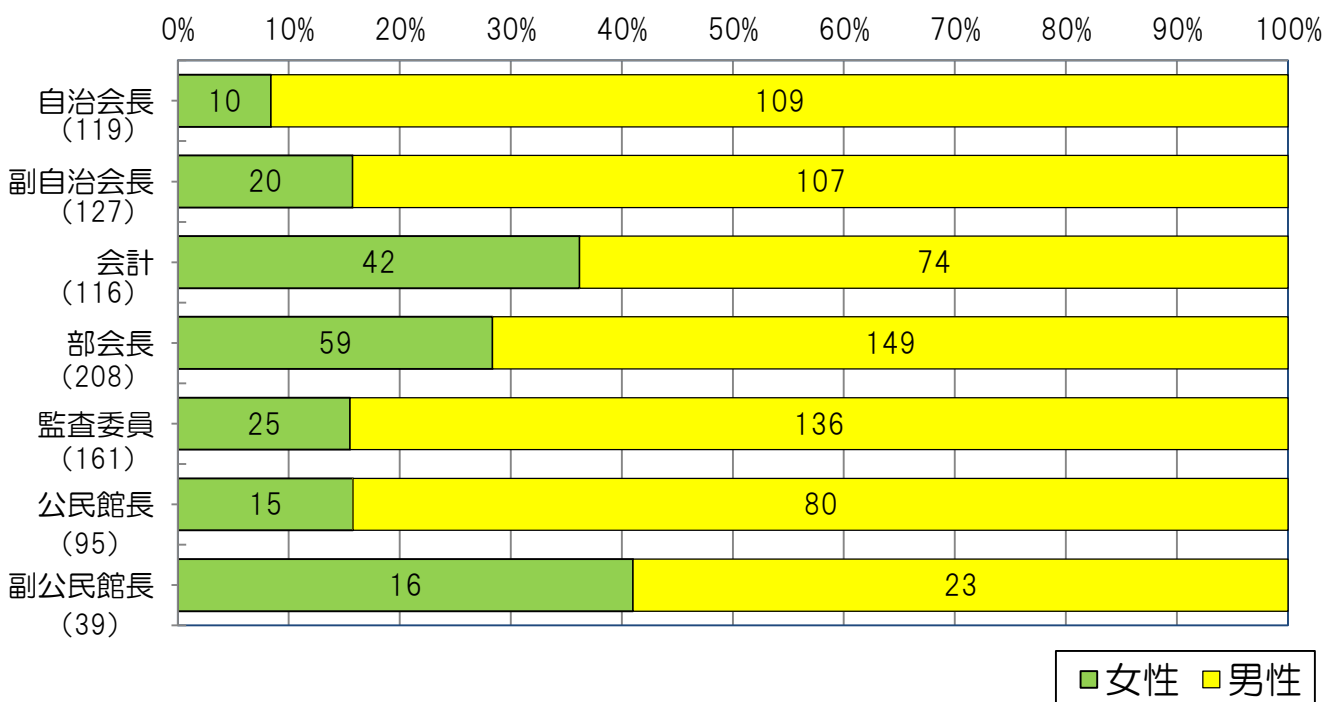
少子高齢化が進む中、活力ある社会づくりを進めるには、社会のあらゆる分野で誰もが性別にかかわらず個性と能力を発揮し、政策方針決定に参画し、責任も共に担うことが必要です。

今回のアンケート調査では、私たちの暮らしに最も身近な地域活動である「自治会」における男女共同参画の実態の調査に取り組みました。調査を通し、「男女がともに地域活動へ積極的に参加できる環境づくり」について地域の方と一緒に考えていくことを目的とし、調査票作成やヒアリング等、調査全般を、むなかた男女共同参画協議会と協働で実施しました。

- ▶ 調査対象 … 12 地区コミュニティ、143 自治会、286 人  
自治会長及び自治会長の推薦する方（各自治会男女各 1 人）
- ▶ 調査期間 … 平成 28 年 6 月～平成 28 年 11 月
- ▶ 調査方法 … 各コミュニティ自治会長会で配布、郵送による回収  
その後、21 人（各コミュニティ 2 人程度）にヒアリング
- ▶ 回収結果 … 有効回収数 … 229 人  
有効回収率 … 80.1%
- ▶ 調査実施団体 … むなかた男女共同参画協議会

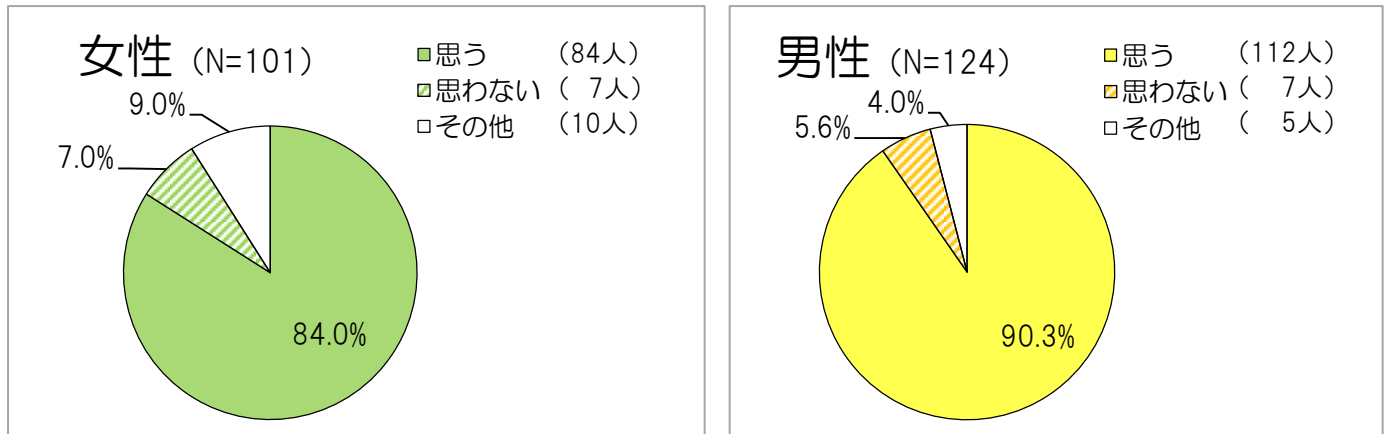
## 自治会役員の男女別人数について (N=119)

\*回答のあった数のみ集計



\* 自治会長の数は、男性が圧倒的に多く、女性は 1 割に満たない。

## 役員に女性は必要だと思いますか。(N=225)

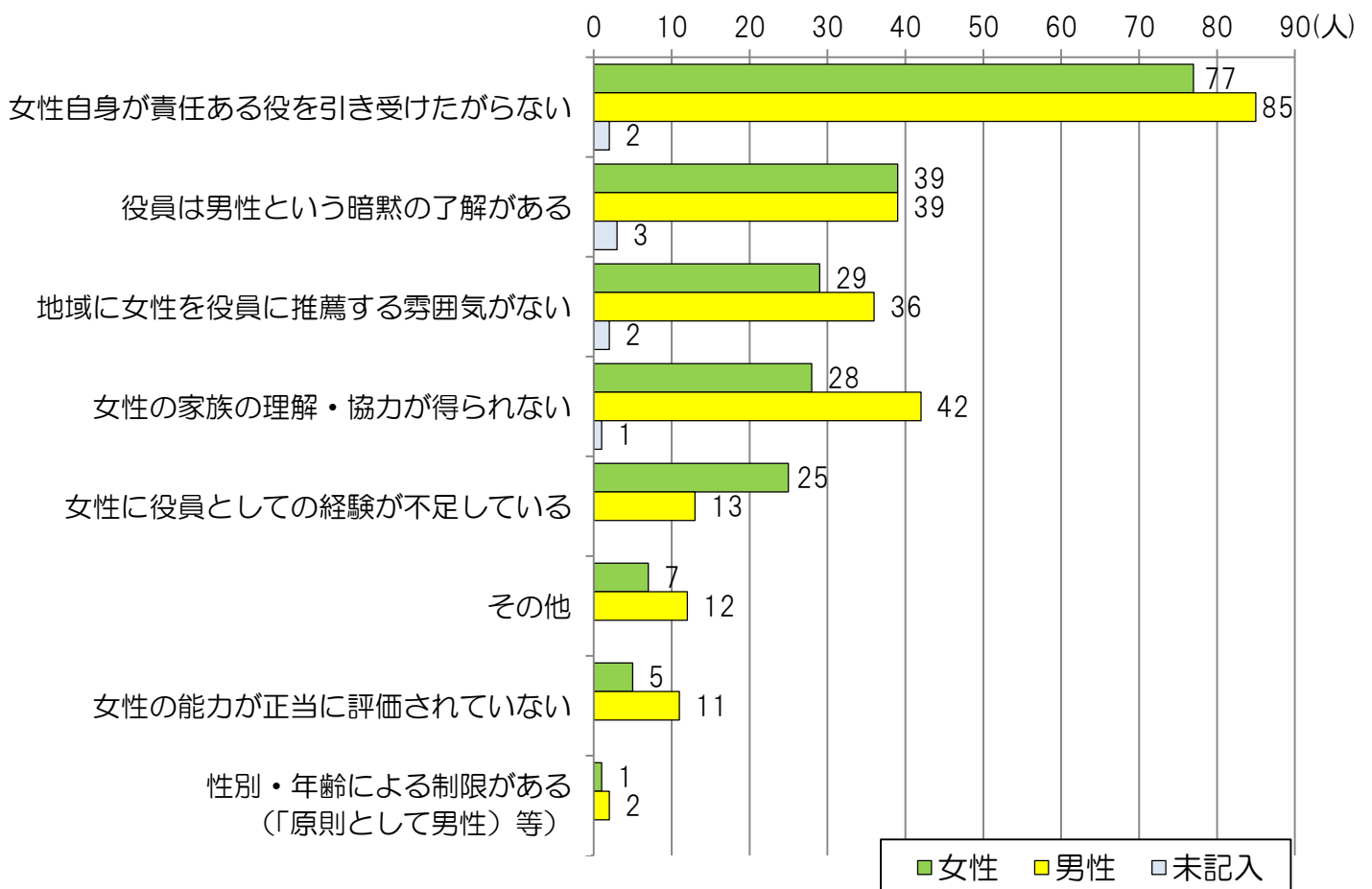


\* 女性の8割以上は、女性役員が必要だと思っている。

\* 男性はさらに多く、9割が必要だと思っている。

## 自治会に女性が少ない理由は何だと思いますか。

(複数回答可) (女性 : N=101、男性 : N=124)

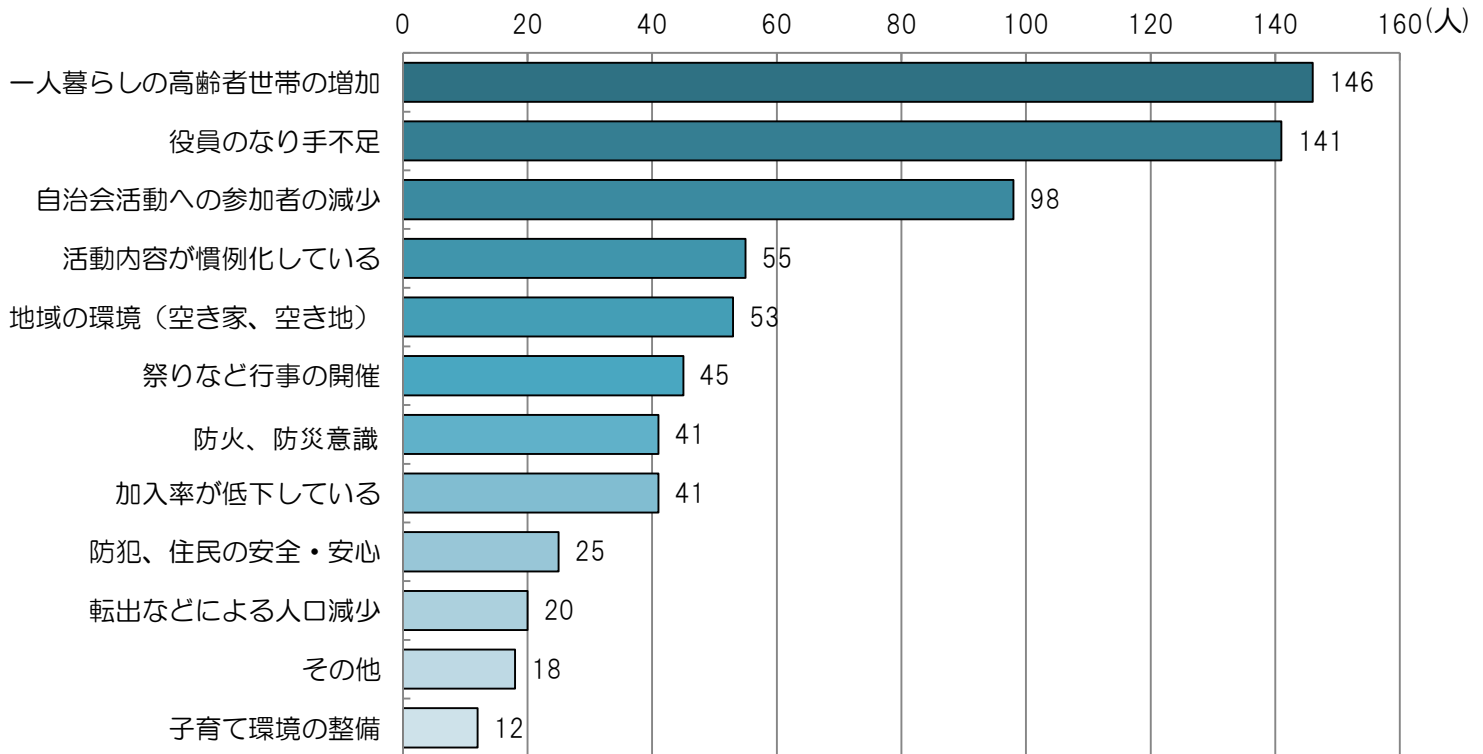


\* 女性自身が責任ある役を引き受けがらないという理由が最も多い。また、役員は男性という暗黙の了解があるという理由も男女共に多い。

\* 「女性の家族の理解・協力が得られない」「女性に役員としての経験が不足している」という選択肢については、男女差が大きい。

## 自治会で、運営上または活動上課題となっていることは何ですか。

(複数回答可) (N=229)



### 監修者のコメント

第2次宗像市コミュニティ基本構想・基本計画では、コミュニティ活動を支える役員や構成員などの担い手が大きな課題として掲げられていますが、女性の役員が少ないことについては触れられていません。今回実施された自治会役員の実態調査において、自治会長に占める女性の割合は8.4%と低く、コミュニティ活動における男女共同参画が進んでいないことが示された意義は大きいと思います。

子育てや高齢者支援、防犯や防災など、多様化する地域課題やニーズへの対応が求められている今、自治会やコミュニティ運営協議会の活動に女性や若い人材がリーダーとして力を発揮できる環境づくりが欠かせないことを理解し、やり方を変えていく必要があります。制度（しくみ）と風土（意識）の両輪を変えて、性別にかかわらずリーダー人材を発掘し、支援していくことが求められています。

複数名で役員職を分担するワークシェアリングや、役員選考における男女の割当制など、他の分野で導入されているしくみを地域活動に応用することもできるでしょう。また、「女性が責任ある役を引き受けたがらない」という表現で、女性のせいにしていないことが大切です。なぜ、責任ある役を引き受けにくいのか、その背後にある原因を探らなければ、問題は解決しません。仕事を持ち、かつ家事・育児をしながらでも参加できるような活動のスタイルに変えていかなければ、担い手不足は解決しないでしょう。

同時に、夫が家事・育児にもっと参加することで、妻が地域活動に参加しやすくなるということも大変重要な視点です。そうした役割分担をするカップルを地域全員で応援するような風土ができれば新たな人材も育っていきます。

丁寧なヒアリングを含む調査結果には、これからの地域活動を活性化させるヒントがたくさん示されています。宗像市のコミュニティ活動が多様な人材を活かす視点を取りこみ、さらに発展されることを心から期待しています。



福岡県男女共同参画センター「あすばる」 館長 松田 美幸

# 今後、どうすれば、自治会に女性役員が増えると思われますか。(N=229)

※（特に必要と思われるものに3つ以内で○を付ける）

